

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年10月5日(2017.10.5)

【公表番号】特表2017-523845(P2017-523845A)

【公表日】平成29年8月24日(2017.8.24)

【年通号数】公開・登録公報2017-032

【出願番号】特願2017-505639(P2017-505639)

【国際特許分類】

A 47L 13/16 (2006.01)

C 11D 17/08 (2006.01)

B 08B 3/08 (2006.01)

【F I】

A 47L 13/16 A

C 11D 17/08

B 08B 3/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月1日(2017.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0213

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0213】

【表5】

手順	CO ₂ 上の 血液／ ミルク／煤	IEC456血液、 未老化	ミルクココア、 未老化	CO ₂ 上の 卵／煤	CO ₂ 上の トマト／ 牛肉ソース	CO ₂ 上の ポリッジ	CO ₂ 上の 植物油／ ミルク	CO ₂ 上の 澱粉／ 色素	平均
元の未洗浄 ミニタ一値	16.7	13.4	38.5	22.2	48.3	47.3	44.2	41.4	34.0
比較例A	35.2	60.9	63.0	46.6	66.0	70.3	55.9	63.5	57.7
比較例B	35.9	84.1	54.1	47.7	84.5	67.6	68.9	51.7	61.8
本発明の例	32.6	54.7	65.5	48.3	80.5	75.9	66.0	64.4	61.0

以下、本発明の実施形態の例を列記する。

[1]

手動表面洗浄方法であつて：

a) 洗剤組成物 A の使用溶液で濡れた洗浄用布地で、表面を濡れ拭きすることと；
b) 工程 a) で汚れた前記洗浄用布地を、前記洗剤組成物 A の使用溶液中で機械的かつ自動的な洗浄によって洗うことと；
c) 工程 b) で得られ、前記洗剤組成物 A の使用溶液によって濡れた前記洗浄用布地で、表面を濡れ拭きすることと；
d) 工程 b) 及び c) を少なくとも一回任意に繰り返すこととを含む、方法。

[2]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、工程 a) で用いたものと同じ又は異なる濃度を有する前記洗剤組成物 A の使用溶液で行われる、項目 1 に記載の方法。

[3]

工程 b) で得られる前記洗浄用布地は、工程 a) で用いた前記使用溶液と同じ濃度の前記洗剤組成物 A の前記使用溶液で浸漬され又は濡れており、工程 b) において工程 c) による使用の準備ができて提供される、項目 1 又は 2 に記載の方法。

[4]

工程 b) で得られる前記洗浄用布地は、工程 a) で用いた前記使用溶液と同じ濃度の前記洗剤組成物 A の前記使用溶液で浸漬され又は濡れており、工程 b) において工程 c) による使用の準備ができて提供され、工程 c) を実施する前に前記洗浄用布地から前記洗剤組成物 A の前記使用溶液を除去しないために、前記洗浄用布地を回転させない、項目 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の方法。

[5]

工程 b) で得られる前記洗浄用布地を、洗浄後かつ工程 c) でそれらを使用する前に乾燥させない、項目 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の方法。

[6]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、保存剤の更なる存在下で行われる、項目 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

[7]

前記保存剤は、アミン、第四級アンモニウム化合物、アルデヒド、抗菌性の酸及びその塩、カルボン酸エステル、酸アミド、フェノール、フェノール誘導体、ジフェニル、ジフェニルアルカン、尿素誘導体、酸素アセタール、酸素ホルマール、窒素アセタール、窒素ホルマール、ベンズアミジン、イソチアゾリン、フタルイミド誘導体、ピリジン誘導体、グアニジン、キノロン、漂白剤又は漂白組成物、並びにこれらの混合物から選択される、項目 6 に記載の方法。

[8]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、乾燥質量 2 . 0 k g の最大容量を有する洗浄機で行われる、項目 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の方法。

[9]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、5 ~ 4 5 、好みしくは 5 ~ 4 0 、より好みしくは 5 ~ 3 5 、更に好みしくは 5 ~ 3 0 、より更に好みしくは 5 ~ 2 5 、なお更に好みしくは 5 ~ 2 1 、最も好みしくは 5 ~ 1 8 の温度で行われる、項目 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の方法。

[1 0]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、1 2 ~ 3 5 の温度で行われる、項目 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の方法。

[1 1]

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、0 . 5 ~ 1 2 時間、好みしくは 1 ~ 8 時間、最も好みしくは 1 ~ 4 時間行われる、項目 1 ~ 1 0 のいずれか一項に記載の方法。

[1 2]

前記洗剤組成物 A は少なくとも一つの界面活性剤を含む、項目 1 ~ 1 1 のいずれか一項に記載の方法。

[1 3]

前記洗剤組成物 A は、非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、及び双性イオンの界面活性剤、及び両性界面活性剤からなる群から選択される界面活性剤を含む、項目 1 ~ 1 2 のいずれか一項に記載の方法。

[1 4]

前記洗剤組成物 A がアルカリ源を含む、項目 1 ~ 1 3 のいずれか一項に記載の方法。

[1 5]

洗浄される前記表面が床である、項目 1 ~ 1 4 のいずれか一項に記載の方法。

[1 6]

洗浄用布地の使用を含む手動表面洗浄のための、及び前記手動表面洗浄によって汚れた前記洗浄用布地を洗うための、洗剤組成物 A の使用であって、前記洗剤組成物 A は少なくとも一つの界面活性剤を含み、前記洗浄用布地の洗浄は保存剤又は保存組成物の存在下で行われる、使用。

[1 7]

以下の a) ~ c) :

a) 洗剤組成物 A と;

b) 一つ又は複数の洗浄用布地と;

c) ポータブル洗浄機又はカウンタートップ洗浄機と
を含む、システム。

[1 8]

前記洗剤組成物 A は、表面洗浄に適し、かつ前記洗浄用布地を含む洗濯物を洗うのに適している、項目 1 7 に記載のシステム。

[1 9]

前記洗剤組成物 A は、床洗浄に適し、かつ前記洗浄用布地を含む洗濯物を洗うのに適している、項目 1 7 に記載のシステム。

[2 0]

前記洗剤組成物 A は:

- 非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、及び双性イオンの界面活性剤、及び両性界面活性剤からなる群から選択される、界面活性剤と;

- アルカリ源と

を含む、項目 1 7 ~ 1 9 のいずれか一項に記載のシステム。

[2 1]

前記洗剤組成物 A は、防汚剤、抗再析剤、酵素、酵素安定剤、消泡剤、光学的増白剤、保存剤、安定剤、例えばキレート剤又は封鎖剤、及びこれらの混合物からなる群から選択される更なる成分を更に含む、項目 1 7 ~ 2 0 のいずれか一項に記載のシステム。

[2 2]

保存剤を、好ましくは別の製品として更に含む、項目 1 7 ~ 2 1 のいずれか一項に記載のシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

手動表面洗浄方法であって:

a 1) 洗剤組成物 A の使用溶液を洗浄用布地に適用することであって、前記洗剤組成物 A は、界面活性剤系及びアルカリ源を含む液体洗剤濃縮組成物であり、前記洗剤組成物 A は、1 1 以上 1 4 以下の pH を有する、ことと;

a) 前記洗剤組成物 A の前記使用溶液で濡れた前記洗浄用布地で、表面を濡れ拭きする

ことと；

b) 工程 a) で汚れた前記洗浄用布地を、前記洗剤組成物 A の使用溶液中で、保存剤の存在下で、機械的かつ自動的な洗浄によって洗うことと；

c) 工程 b) で得られ、前記洗剤組成物 A の使用溶液によって濡れた前記洗浄用布地で、表面を濡れ拭きすることと；

d) 工程 b) 及び c) を少なくとも一回任意に繰り返すこととを含み、

工程 b) で得られる前記洗浄用布地を、洗浄後かつ工程 c) でそれらを使用する前に乾燥させない、方法。

【請求項 2】

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、工程 a 1) 及び a) のそれと用いた前記使用溶液と異なる濃度を有する前記洗剤組成物 A の使用溶液で行われる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

工程 b) で得られる前記洗浄用布地は、前記洗剤組成物 A の前記使用溶液で浸漬され又は濡れており、当該使用溶液は、工程 a 1) 及び a) のそれと用いた前記使用溶液としての前記洗剤組成物 A と同じ濃度であり、工程 b) において工程 c) による使用の準備が^でて提供され、工程 c) を実施する前に前記洗浄用布地から前記洗剤組成物 A の前記使用溶液を除去しないために、前記洗浄用布地を回転させない、請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記保存剤は、アミン、第四級アンモニウム化合物、アルデヒド、抗菌性の酸及びその塩、カルボン酸エステル、酸アミド、フェノール、フェノール誘導体、ジフェニル、ジフェニルアルカン、尿素誘導体、酸素アセタール、酸素ホルマール、窒素アセタール、窒素ホルマール、ベンズアミジン、イソチアゾリン、フタルイミド誘導体、ピリジン誘導体、グアニジン、キノロン、漂白剤又は漂白組成物、並びにこれらの混合物から選択される、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、乾燥質量 2.0 kg の最大容量を有する洗浄機で行われる、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、5 ~ 45 、好ましくは 5 ~ 40 、より好ましくは 5 ~ 35 、更に好ましくは 5 ~ 30 、より更に好ましくは 5 ~ 25 、なお更に好ましくは 5 ~ 21 、更に好ましくは 5 ~ 18 、最も好ましくは 12 ~ 35 の範囲の温度で行われる、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

工程 b) による前記機械的かつ自動的な洗浄は、0.5 ~ 12 時間、好ましくは 1 ~ 8 時間、最も好ましくは 1 ~ 4 時間行われる、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

前記界面活性剤は、非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、及び双性イオンの界面活性剤、及び両性界面活性剤からなる群から選択される、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

洗浄される前記表面が床である、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

前記洗剤組成物 A は、防汚剤、抗再析剤、酵素、酵素安定剤、消泡剤、光学的増白剤、保存剤、安定剤、例えばキレート剤又は封鎖剤、及びこれらの混合物からなる群から選択される更なる成分を更に含む、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

以下の a) ~ c) :

a) 界面活性剤系及びアルカリ源を含む液体洗剤濃縮組成物を含む洗剤組成物 A であつて、前記洗剤組成物 A は、11以上14以下のpHを有し、前記洗剤組成物 A は、表面洗浄に適し、かつ前記洗浄用布地を含む洗濯物を洗うのに適している、と；

b) 一つ又は複数の洗浄用布地と；

c) ポータブル洗浄機又はカウンタートップ洗浄機と
を含む、システム。

【請求項12】

前記洗剤組成物 A は、床洗浄に適し、かつ前記洗浄用布地を含む洗濯物を洗うのに適している、請求項11に記載のシステム。

【請求項13】

前記界面活性剤は、非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、及び双性イオンの界面活性剤、及び両性界面活性剤からなる群から選択される、請求項11又は12に記載のシステム。

【請求項14】

前記洗剤組成物 A は、防汚剤、抗再析剤、酵素、酵素安定剤、消泡剤、光学的増白剤、保存剤、安定剤、例えばキレート剤又は封鎖剤、及びこれらの混合物からなる群から選択される更なる成分を更に含む、請求項11～13のいずれか一項に記載のシステム。

【請求項15】

保存剤を、好ましくは別の製品として更に含む、請求項11～14のいずれか一項に記載のシステム。